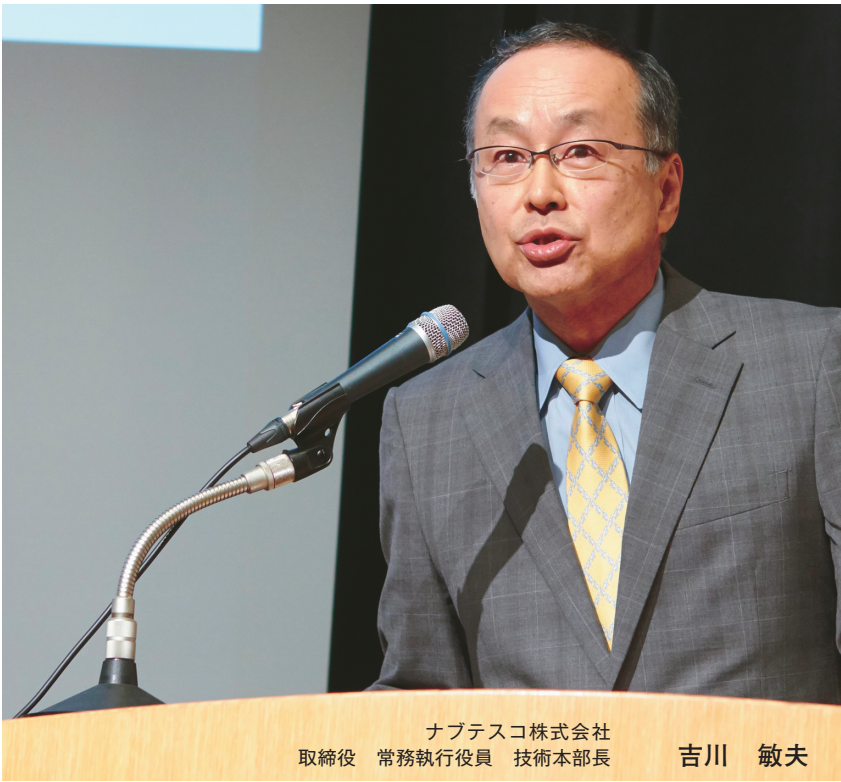


ナブテスコ株式会社

# 経済性の追求しながら

## 環境への取り組みを積極的に推進



ナブテスコ株式会社  
取締役 常務執行役員 技術本部長 吉川 敏夫

### 第三者検証範囲を拡張し、 情報開示

ナブテスコグループは「独創的なモーションコントロール技術で、移動・生活空間に安全・安心・快適を提供する」を企業理念に人々の暮らしを支える社会基盤を構築する重要な製品を提供している。それと同時に付加価値の高い製品の提供により、社会・経済の発展に貢献することを企業の責任として認識し、CSR活動を積極的に進め、グローバルな環境課題の解決を目指している。

その中の一つとして温室効果ガスの排出量削減に向けて積極的な目標を設定し、エネルギーモニタリングシステムを導入した新たな取組みの展開や新工場へのエネルギー効率の高い省エネ技術導入により排出量を削減も挙げられる。

またグループ内の環境データ収集

システムによりグローバルデータの開示を推進し、その開示データにおいては第三者検証範囲を拡張している。それらの取組みがAリスト入りの選定に對して高く評価された。

### 新工場でも環境負荷を軽減

CDP2016日本報告会で挨拶に立った吉川敏夫常務執行役員は、建築や飛行機、船舶といった重要コンポーネントのサプライヤーとして製品を届けながら、環境性や社会性を重要視してきたことを述べ、経済性を追求しながら気候変動を抑えるために様々な取組みを進めていると話した。事実ナブテスコは最近では垂井工場（岐阜県）新建屋の屋上に400kW太陽光発電パネルを設置し、2012年8月1日より稼働させている。これにより、2012年度は283MWhを発電しCO<sub>2</sub>排出量を157トン削減するとともに、ピーク電力低下に貢献することができた。また風力発電用駆動装置や太陽熱発電用追尾装置などのクリーンエネルギー市場向けの事業も展開している。挨拶で同氏は、さらなる創意工夫によって気候変動の改善に取組んでいきたいと抱負を語った。